

安全な国産グリーン社会

コラム SDGS Safety Domestic Green Society

第12回

まとめと折り返し

国民的理解のために

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

SDGSとはじめ

このSDGSのコラムも今回が12回目となった。一周年を迎えたので、まとめと展望を述べたい。いま私は、大急ぎで表題の「安全な国産グリーン社会」を構築する必要があると考えている。その実現には、大きな障害や試験に対する強い意思決定が必要となる。これには、2050年カーボンニュートラル、2030年温室効果ガス46%削減に向けた国際的な約束を履行しなければならぬという背景がある。

SDGSとはじめ

SDGSとはじめ

グリーン社会

グリーン社会において、前回のコラムに述べたように、グリーン視点の必要がある。それは、負の遺産を、あるいは責任を押し付けるのではない、という判断を常に持つ必要がある。それは、原子力という放射能の危険なエネルギー源の利用と、その処理、資金や時間を費やす必要を避けるべきである。

洋上風力発電

前述したように、その一つの強力な方法には、洋上風力発電の推進がある。洋上風力発電の実施地域が12海里(1海里は1.852km、12海里は22.224km)以内である。これは、領海(約12海里)を超えて、深海域でのエネルギー獲得が必要となる。それは、浮上式の洋上風力発電施設建設に通じるものであり、国際法の秩序において処理されなければならない。いわゆる、排他的経済水域(EEZ)の中での洋上風力発電の実施が求められるのであり、その方策を正していかなければならない。島国である日本の場合、領海とEEZとの境界線が、排他的経済水域(EEZ)の中での洋上風力発電の実施が求められるのであり、その方策を正していかなければならない。島国である日本の場合、領海とEEZとの境界線が、排他的経済水域(EEZ)の中での洋上風力発電の実施が求められるのであり、その方策を正していかなければならない。

技術の先端

技術の先端

電所の設置は極めて危険なものである。通常の常識である。技術は経験が必要である。現在、日本での洋上風力の広がり、秋田・山形・新潟の各県では日本海に面した地域で行われており、また青森県や富山県などは湾内であり、千葉県の銚子沖も内海の領海の範囲で行われており、現状ではEEZとは関係がない。一方、南の長崎県の取り組みは、将来はEEZの範囲での洋上風力に発展への拡がりをもつ。

原子力からの卒業

原子力からの卒業

今後の取り組み

今後の取り組み

日本の特殊性

日本の特殊性

今後の取り組み

今後の取り組み



日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

日本の排他的経済水域EEZ(白地) 資料:海上保安庁

連載